

Hib(ヒブ)ワクチンを受けられる方へ

病気について

インフルエンザ菌特に b 型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症を起こす乳幼児の病原細菌です。Hib による髄膜炎は 5 歳未満人口 10 万対 7.1~8.3 とされ、年間約 400 人が発症し、約 11% が予後不良と推定されていました。生後 4 か月~1 歳までの乳児が過半数を占めていました。

Hib(ヒブ)ワクチンについて

インフルエンザ菌は 7 種類に分類されますが、重症例は主に b 型のため、ワクチンとしてこの b 型が使われています。このワクチンは世界的に広く使われていますが、わが国でも、平成 20 年 12 月に接種できるようになりました。欧米ではワクチン導入後、Hib 重症感染症は劇的に減少しました。WHO は 1998 年乳幼児への定期接種を強く勧告し、世界 110 カ国以上で導入され、その効果は高く評価されています。

このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、米国産ウシの心臓および骨格筋由来成分、ブラジル産ウシの心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、すでに世界 110 カ国以上で使用されており、このワクチン接種により 伝達性海綿状脳症(でんたつせいはいめんじょうのうしょう:TSE)にかかったという報告はありません。したがって、このワクチンを接種された人が TSE にかかる危険性は極めて低いと考えられています。

予防接種の受け方

対象者 : 生後 2 か月~5 歳に至るまで(5 歳になる前日まで)

標準的な接種開始年齢 : **生後 2 か月~7 か月に至るまでの間**

接種開始年齢(月齢)	初回接種	追加接種
生後 2 か月~7 か月に至るまで	27 日以上(※)、標準的には 56 日までの間隔をおいて 3 回 ☆生後 12 か月までに完了すること	初回終了後 7 か月以上、標準的には 13 か月までの間隔をおいて 1 回
生後 7 か月~12 か月に至るまで	27 日以上(※)、標準的には 56 日までの間隔をおいて 2 回 ☆生後 12 か月までに完了すること	☆ただし、初回接種を完了せずに生後 12 か月以降に追加接種を行う場合は、初回接種終了後 27 日以上(※)の間隔をおいて 1 回
1 歳~5 歳に至るまで	1 回	

※ 医師が必要と認めるときは 20 日以上の間隔をおいて接種できる

予防接種後の注意と副反応について

- ① 予防接種を受けたあとはしばらくお子さんの様子をみた後、医療機関の指示に従ってください。
- ② 接種後 24 時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
- ③ 発熱もなく、体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をなるべくこすらないようにしてください。
- ④ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
- ⑤ 接種後の副反応としては、局所反応が中心で発赤(44.2%)、腫脹(はれ)(18.7%)、硬結(しこり)(17.8%)、疼痛(5.6%)、全身反応は不機嫌(14.7%)、食思不振(8.7%)、発熱(2.5%)などが認められています。1 週間くらいはお子さんの健康状態に気をつけてください。

機嫌がわるくなったり、異常のあるとき(接種部位から肘を越えるような腫れなど)は、接種を受けた医師にご相談ください。また、下記にもご連絡ください。

(予防接種健康被害救済制度について)

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種を受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。

お問い合わせ先

大東市地域保健課【すこやかセンター(保健医療福祉センター)3階】

四條畷市立保健センター

☎072(874)9500

☎072(877)1231